

暑中お見舞い申し上げます。

日本塗装機械工業会

会長 壺田 貴弘

暑中お見舞い申し上げます。また、九州中心の集中豪雨で亡くなられた方に哀悼を表すとともに被災された方々に深くお見舞い申し上げます。

ここ数年、日本の各地でかような集中豪雨に見舞われているのは地球温暖化の影響ではと言われる中で、CO2 削減を目指したパリ協定が締結され、日本もこれを批准し取り組みを開始したことは真に喜ばしい限りです。塗料業界がオリンピックへ向け遮熱塗料を PR している一方、我々、塗装のハード面を担う塗装機械の分野でも、塗料ロスの低減化に寄与する高塗着効率の塗装機や省エネシステムを導入した塗装システムなど環境に配慮した取り組みが加速されています。CEMA はその成果を中心に、年 1 回技術シンポジウムを開催してきましたが、従来の東京中心を発展させ、東京開催（10 月 20 日）以外に今年は全国展開の第一弾として 11 月 14 日（火）に西日本を対象にして大阪にて開催することになりました。元来、塗料会社が集結していた大阪の地で原点に帰り塗料・塗装のシンポジウムを開催することは長年の念願でもありました。今回は聴講者も参画できる「パネルディスカッション」方式も取り入れ、塗装の抱える課題に幅広い立場での問題解決を目指したいと思えます。テーマは環境問題、IoT 活用の生産システムなど幅広い塗装現場にニーズにお応えする内容で予定します。

CEMA は今年度 41 年目の新しい 10 年を目指してスタートしました。昨年会長をお引き受けし、CEMA 原点からの再スタートと宣言し、会員総意で新しい方向性を模索しています。世界経済をグローバルに展望しますと、TPP をアメリカが脱退すると思えば、EU と日本では EPA 協定が締結され世界の三分の一の経済圏ができるなど目まぐるしく変化しています。塗料業界でも世界的な M&A が進行し統合が進む中で、塗装機械業界の生き残る道は何でしょうか。日本の高度成長とともに発展してきた業界は、人口減少化での低成長時代では量的な拡大での発展は望めず、差別化した技術開発による生き残りなどに挑戦するしかありません。グローバル化した中での競争も核となる技術、商品が無ければこれから追い上げる中国などにはコスト競争で敗北するでしょう。その技術の差別化をするためにも日本の工業製品の産業分野とのコンタクトを密にし、物づくりのニーズ情報を収集し開発の焦点を定める必要があります。思えば 1885 年（明治 18 年）に日本の特許第 1 号として「錆止め塗料及び塗装方法」が制定され、由来、日本の産業発展とともに歩んできた塗料・塗装業界は、今後も産業発展の要としての役割と責任を期待されています。特許第 1 号の精神は「塗料と塗装方法」に示されるように、軍艦に塗る材料から塗膜までを一体化したところに特徴があります。明治時代に示された塗膜にしてこそ役に立つ、の考えは、軍事産業でなく人々の生活の向上に向けて分野での期待は益々膨らむ時代となっています。これからも再度、塗料関係者と塗装機械関係者が車の両輪となって日本の産業の発展を推

進んで行きたいものです。

CEMA は 21 世紀に入るに際して①塗装技術で価値創造しグローバルに展開②地球環境保全③共生と共栄の CEMA21 世紀ビジョンを設定し、その精神に基づいて活動を展開していますが、幅広い塗装関係者との情報交換がその根幹となります。その活動を皆様にご理解いただくために、CEMA ホームページに情報を集約させて、塗装の「電子図書館」を作成し充実させていく予定ですので、皆様のご参画をお待ちいたします。

猛暑を迎える中、皆様方のご健勝を祈念いたします。